

研究成果に基づく清拭技術の臨床応用

松田 たみ子

清潔ケアは、生理的にも心理・社会的にも日常生活に欠くことのできないケアである。全身の清潔を保持することに大きな役割をもつ清拭ケアは、入浴が不可能な人に対して、様々なプラスの効果を期待して、行われている。

清潔ケアでは、どのケアも清潔にすることはまず第1にあげられる目的である。しかし、常にその中に上述の付随するプラスの効果を期待して行われている。従来、清拭の基本的な方法としてどの患者に於いても同じ効果を期待して同じやり方が適用されてきている点もあるのではないだろうか。つまり、例えば、誰もがみな循環促進の為の拭き方が必要な訳でなくても、四肢を拭く時は、常に末梢から中枢に拭かなければいけないというように考えていないだろうか。しかし、本来は期待される効果は個々の対象によって異なり、個人個人に必要とされる効果が最も得られるような方法を適用することが重要できると考えられる。

今回は、特に四肢の拭き方を例に、拭く方向と循環促進効果はどのような関係にあるのか、きれいに拭くには（たとえば汚れを落とす場合はとか、石鹸分をきれいに早く拭き取る場合とか）どの様な拭き方が効果的なのか等について、私どもの研究成果、そして参加して下さる皆様の実践例などを基に討論し、快適で個別の目的達成に効果的な清拭の方法について考えたい

日頃の実践からの疑問やご意見などを提供していただき、ご一緒に考えたいと思います。

松田たみ子：千葉大学教育学部（看護）教員養成課程卒業。千葉大学大学院看護学研究科、大阪大学大学院医学研究科修了。千葉大学医学部付属病院看護師、東京女子医科大学および自治医科大学看護短期大学、東京医科歯科大学、三重県立看護大学を経て現在自治医科大学看護学部教授。基礎看護学担当。